おのおのの物そして心の両面の10%をささげ 世界に平和と健康をつくりだす人を――。

PHD LETTER 36

1990・9

PEACE・HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT

PHD運動とは1962年より約20年間、ネパール、東南アジアを中心とした発展途上国で医療活動に従事した岩村昇博士の提唱による国際社会福祉運動です。これまで自分のためだけに使っていた時間、技能、財などの10パーセントをささげて、平和づくり(Peace)健康づくり(Health)を担う人材をつくる(Human Development)運動を世界中にひろめることを目的として、1981年からはじまりました。

発　行：財団法人PHD協会
編集人：草地賢一
住　所：〒650神戸市中央区元町通5-4-3 元町アーバンライフ202
TEL(078)351-4892 FAX(078)351-4867
郵便振替：神戸1-29688 財団法人ピー・エイチ・ディー協会
定　価：100円

●フィリピンレポート……3P
●行くだけでなく、来ました……4P

スリランカ中部の農村

荷車のかげから
少年が顔をのぞかせた。
カメラをむけてピントを合わせていたら
2人のおじさんも一緒にレンズにむかって
遠慮がちににっこり。

草の根の人々を訪ねて
Report from Asia and South Pacific
フィリピン〜タイ

現地の人と人をつなぐPHDの役割

ピーター、ドミー君と出会うホセ・バルダード町長　西ネグロス・オリンガオ村で

7月のネグロスは、3月末から4月にかけて訪問した時に較べかなり緊張していた。一つには日本のボランティア団体の水野氏がＮＰＡに誘拐されていたこと。それにネグロス入り直前にアメリカの平和部隊の青年が、同様に捕われていたことが発表されたからである。

現に前回訪問したビナルバガン近郊の国内難民再定住センターを訪ねることは許されなかった。

さて今回の訪問の目的は、東ネグロスの地域調査、4月に村に帰ったドミー君のフォローアップ及び91年の研修生の選考が中心であった。ドミー君は村人の歓迎ムードも落ち着き、グループの人々と日本で学んだことを整理しつつあった。1月に来日したピーター君とよく調査し、今年後半からグループの共有地を中心に実験農場を開く予定とのこと。最初だけに慎重にすすめたいと言っていた。彼を送り出したオリンガオ村の南ネグロス小農民協会と相談し、3人目の研修生は、保健・栄養を、特に幼児やその母親に理解を深めるための研修をすすめたい。そのために来年は女性を選ぶことにした。二人の若い候補者を得て同協会の役員とＰＨＤとで慎重に協議し、ジャネット・バテルナさん（20才）を選んだ。

今回の訪問でＰＨＤのような外国のＮＧＯの役割の新しい側面が認識された。東ネグロス、マンフォッドの町長ホセ・バルダード弁護士と南ネグロス小農民協会議長ピーター・クアロス君を引き合わすことができた。それぞれに立場は異なりながら共に地域を発展させるために献身している。ふたりからは、各自の実践から得た体験や情報を交換することによって共同でできる点が発見できたと大変喜ばれた。外国のＮＧＯがもっているネットワークが思わぬところで人と人を結びつける。案外このような新しい関係づくりもわれわれの役割なのかも知れない。

数日後に起こった地震など予想もしないでフィリピンをあとにして、次の訪問地チェンマイに飛んだ。

タイでの目的はプリチャー、コマ君等北タイに帰った人々のフォローアップと、ワラヤさん、サンコム君、バムルン君等東北タイに帰った人々のフォローアップ及び91年の研修生を選ぶことであった。北タイにはＮＨＫのカメラが同行し、コマ、プリチャー両君の活躍ぶりがドキュメントされた。（これはＮＨＫ大阪から去る7月27日、マンスリーアジアという番組で報道された。）

コマ君は現在125人のメンバーと共に活発に協同グループを発展させている。プリチャー君は35人からなる草木染めの婦人グループ作りに頑張っている。

ワラヤさんは帰村後1年4ケ月、村の中堅リーダーとして肥料、豚グループの代表。サンコム君は帰村後しばらくして1才年上のフォンさんと結婚。彼女は二人の送り出し団体サイナワーン農民協会の職員である。小柄な本当に可愛い、しかししっかり者の女性である。

5月に結婚したサンコム君とフォン（雨の意）さん
東北タイ・カラシンのサイナワーン農民協会事務所で

この村からの91年の研修生はサウェーさん。（奥さん、男の子二人の家族持ち。32才）落ちついたいかにも百姓という暖かい感じのする青年。また昨年招く予定であった村のリーダーを短期間招くことも話し合い決定した。

総主事・草地賢一

私もちょっと世界を斬る！

「ビルマへの思い」

佐藤功行（神戸市・司法試験浪人）

ビルマ（あえて「ビルマ」とよびたい）についてみなさんはどれほどのことをお知りでしょうか。実は僕自身もあまりよく知らないのですが、祖父の知り合いがいる関係で一度この国を訪れたことがあります。もう六年前のことです。

大戦中日本軍はビルマを占領しようとしましたがイギリス軍と戦ううちに終戦となり、結局日本がイギリスの植民地からこの国を解放したような形になりました。だから今でもビルマには親日的な人が多いようです。僕も機会あって老軍人にビールを馳走になり、渋い日本の軍歌を聞かされたりしました。

ビルマには本当に魅せられてしまいました。街中を歩いていても男はみんなロンギーをまとい、ズボンをはいている人などほとんど見かけません。今でもそういった昔からの風習が根づき、西欧文化に毒されていないビルマは、周りの国と比べても全く別世界です。

マンダレーで、知り合いの家族のお父さんが共同農場に連れていってくれたときのことです。村の子どももおとなもみんな集まってきました。これを食べろ、それを飲めと、いろんな人がいろんな物をふるまってくれます。何を話しているのかよく分からないけれど、みんなの顔には穏やかな微笑みがありました。

今ビルマでも民主化運動が続いており軍政府と対立しています。人間が自由で平和に生きてゆくのにその社会が民主的であることは必要でしょう。でも本当に大切なものは民主主義それ自体ではなく、人々のこの穏やかな微笑みなのだと思います。

フィリピンレポート

保育者のための
フィリピンスタディツアー報告

「マチで、ムラで、出会った子どもたち」

参加者の対象を絞ったツアーの第2弾。6人がフィリピンの都市と農村、政府と民間の保育所を訪ね、保育に映し出されたフィリピン社会をかいま見ました。

またオリンガオではドミーさんが加わる南ネグロス小農民協会「カサマ」の、農業を通じた自立への働きにもふれてきました。

7/2-4　マニラ〜ストリートチルドレンの保護施設〜スラム
4-6　ネグロス東州ドゥマゲティ市〜シリマン大学〜保育所
7-8　同州マンフォッド町〜保育所〜漁村〜NGO訪問
8-10　ネグロス西州オリンガオ村（7期生ドミーさんの村）

「フィリピンが好きになった！ —オリンガオの子ども達—」

何かこの国から学びたい、特に子ども達の中から学びたいという思いで参加しました。

フィリピンは確かに貧しい国でした。特に子どもが一番被害を受けています。

ドイツのNGOの援助で運営されているマンフォッドの教会付属の保育所の給食風景、むろんこれだけで飢えは解決しない。

親に捨てられた子、ストリートチルドレンとして生活をしている子、しかも児童売春をしなければやっていけない子、その話を聞きながら、なぜという思いと何ともいえない怒りを感じました。しかしそのような状況の中でも、例えば私達が訪れたネグロス東州の一部では、貧しい子どものために保育所が作られ、大学もそれに関与して働いているという事実を見ることができました。しかし、それは一部の子だけです。活動も教育より飢餓のための給食に重点がおかれています。この事実を見るとやはり不幸な子ども達だと感じてしまうことがありました。

しかし、日本の子は物質的に豊かな中で育っているから幸せで、フィリピンの子は貧しいから不幸なのかという疑問を持ちました。特にこれを感じたのがネグロスのオリンガオ村です。私は半日、子ども達と遊ぶ機会を持つことができました。子ども達は言葉のわからない外国人の私を心よく受けいれてくれ、思う存分遊ぶことができました。私にとってその日が一番うれしくもあり楽しい一日でした。

また、貧富の差を生みだすこのような社会構造の中でも、人間が人間らしく生きるために、命をかけて闘っている農村の人達の実態を見ました。子ども達はこの大人達の背中を見て育っているのです。ある意味でそれが一番の教育なのではないかと感じました。

唐渡道子（高松市・保母）

「さとうきび畑から田んぼへ」

平野部一面に広がるさとうきび畑。この美しいまでに壮大な景色は「不公平」の象徴。大地主を富ますことはできても、農民の食物にはなり得ないさとうきび。彼らは何を食べて生きていけばよいというのか。

猫の額ほどの水田は農民の「闘いの勝利」の象徴。多くの年月と犠牲を払って得た田からの実りは、確実に潜む、深く大きな問題。頭の中で空回りしていたものが、自分の目と耳で確めることで見えてきた旅だった。

門野里栄子（シンガポール・主婦）

門野さんの今回の訪問記が本記事とは別に神戸新聞（8/14〜8/16）に掲載されました。

「目を覆うスラムの貧困」

フィリピン・ネグロス島を東から西に抜ける山中は、木がなぎ倒された後に、一面さとうきびが植えられている。道は山腹をぬうように走るが、さとうきびはどこまでも続く。日射しは強く、緑のさとうきびは、風にそよいでいる。

一見のどかな風景のようだが、マニラからネグロスまで、貧しい子供達が通う保育所を訪ね歩いてきた私にとって、それは胸をしめつけられるような風景だった。

都市やその周辺を問わず、スラムの貧困は目を覆うばかり。その背景には、農村での強い地主制度、さとうきびプランテーションの存在がある。低賃金で働かされ、砂糖の相場が下がれば一方的に解雇される農民の姿がある。毎日がギリギリの生活で、貯えのない彼等は、スラムの民となるしかない。子ども同じだ。

栄養不足で髪の茶色い、三才なのに立つこともできない女の子。ドゥマゲティ市の保育所で出会ったその子の貧しさの裏をたどってゆくと、そこには果しないさとうきび畑が広がっている。

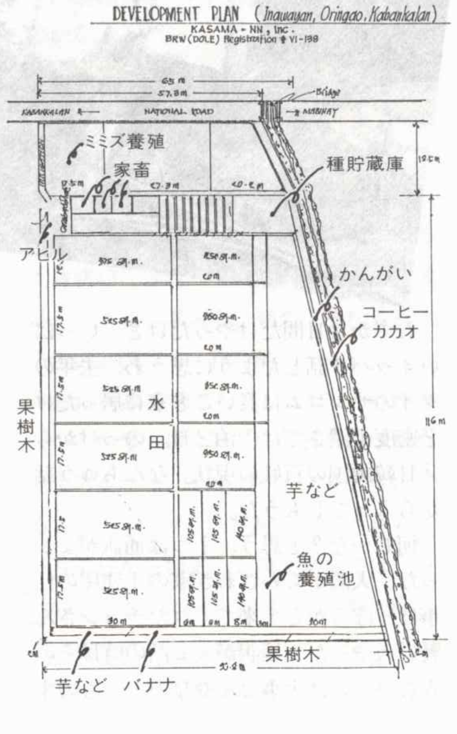
無論、フィリピンの貧困の理由は、これだけではない。でもプランテーションがその中心にドーンとあることは事実なのだ。

旅から帰って以来、心の中に時々、あのさとうきび畑が甦える。まるで「これから、あなたはどうするつもり」と、私に挑むように、風にゆれている。私に、それから私の周囲の人たちに一体、何ができるのか。ＰＨＤをはじめ、多くの援助団体の人たちと係わりながら、答を探していきたいと思っている。

大田阿里佐（神戸市・新聞記者）

張りきるドミーさん！

ツアーメンバーにドミーさんが説明した有機農業のモデル共同農業予定図。農場の収益は村の子供の教育費に充てたいとのこと。



韓国短期研修生レポート

"行く"だけでなく"来ました"

87年度からの韓国比較研修でＰＨＤ研修生が訪れた洪城、居昌、礼山から４名の農業者をこの度招きました。約２週間の滞日中、指導農家に滞在し、日本の農業の現状、農産物流通システム、有機農業の技術・倫理等を学びました。

８月20日からは８期生３名と指導農家のお一人渡辺さんが韓国農村を訪ねます。

■日程

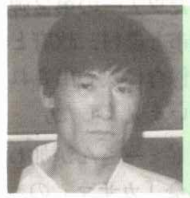
６月25日来日、歓迎会→26日～30日農家滞在（八千代町青位氏、市川町牛尾氏、丹南町渡辺氏、福崎町広岡氏）→30日在日本韓国ＹＭＣＡ訪問(大阪市)→７月１日在日韓国人の方々と交流→２日～４日農産物流通システムの見学(神戸市一市島町)→４日韓国に興味を持つ人々との交流会(神戸ＹＷＣＡ)→５日キリスト教牧師との交流会→６日淡路島フィールドトリップ→７日～８日大阪観光　９日離日

崔　成鳳（チェ ソンボン）(59才)
忠清南道洪城郡
プールムー農業高等学校副校長（団長）
野菜、果樹等を研修

今回の団長でもある崔先生は、日本の山形キリスト教独立学園、三重県愛農高校とも兄弟校である農業高校の副校長。メンバーをリードし、達者な日本語と素敵な笑顔で「アジアの平和、健康づくりのために今後もこの交流を継続していきたい」と話されました。

李　錫重（リ ソクチョン）(27才)
忠清南道洪城郡
農業、プール農会所属
野菜、養鶏等を経営

崔先生が副校長を務める農業高校の卒業生でもある李さん。片言の日本語のボケとつっこみで周りの人たちを笑わせてくれました。有機農業の生産者と消費者が、生命を守っていくという関係を結びその維持のためにお互いに努力していることに大きな自信を得たとの事です。



申　楠均（シン ナムジョン）(35才)
忠清南道礼山郡
農業　礼山農志会所属
稲作、野菜等を経営

いつもコワモテで日本の農業の技術や農協のしくみに鋭い質問を発していたのが申さんです。日本の農家の方々との交流の中で、お互いに同じ問題を抱えながらも一生懸命に経営に取り組み、又日本人の親切なことに触れ、深い友情と親しみを感じたと話してくれました。

崔　龍煥（チェ ヨンヘン）(27才)
慶尚南道居昌郡
居昌農民会所属
野菜、養鶏、養豚等を経営

韓国の伝統的な靴コムシンをはき、文化と伝統に対する誇りを感じさせた崔さん。お金でなく生命で農業を促える有機農業運動は生産者と消費者のたゆまない努力によって成り立っていることを深く認識し、農業以外でも在日の方々の問題、日本という国について理解できるようになったとのことです。

韓国から百姓２人、１泊２日

青位真一郎（農業・兵庫県八千代町）

県内農家で研修する4人の韓国研修生。

わずか２日間だけやったけど、いっぱいイッパイ話したように思うわ。去年のタイのサンコムは長いこと家に居ったけど密度の濃さでは１泊２日。のっけから「日韓両国の百姓の現状」なんちゅう話から入ってしもうた。

何でかな？と思う。１つは通訳がよかった。大阪からわざわざ家の土建屋の仕事ほっぽらかして来てくれたチョンさん。賢い人やった。通訳が入る話の時はその資質いうのは大事なんやなあと、ものすごう感じた。（チョンさんを紹介してくれた八千代町の教育委員会殿、感謝！）

２つめは、２人とも既に自立していて「地域や国政の中の自分」いうもんを認識した上で営農をしとると言う事かな。せやから対等な感じで話ができた。

シンさんはちょっとインテリで多分韓国では機械化した中規模先進農家。チェさんは泥にまみれて百姓小僧、元気印。

３つめは、こちらが韓国の状況をある程度知っていると言う事。これは決定的に大きかったな。新聞にタイやパプアニューギニアの事は載ってなかっても韓国に関しての記事は必ず出てる。政治状況を含めて国の様子の基本知識が（おそらくお互いに）あっての話というもんは、こらビールと一緒に話も弾む。

お互いの国とも、経済優先。どこかの誰かの利益のために、伝統・文化・生活までもが大きく変えられようとしている。

韓国ではその経済成長のペースが、日本のかってのそれよりもはるかに早いだけに、濃縮した形で問題が生じている様だ。そしてそれらは決まって弱いところに。

しかしダ、百姓は決して負けないノ！シンさん、チェさん、きっと行くよ。あんたの田んぼ、見せてな。

８期生研修報告

６月おわりから７月にかけてやっと来日した３人の８期生研修生。阪神間の家庭に滞在し、約１カ月、日本語の学校に通い、８月からの農業研修に備えました。
今年お世話になった３軒のお宅はＰＨＤの研修生は初めて。お宅を訪ねてお話を伺いました。

ネストールさん（フィリピン）―
簗瀬彰宏さん宅（西宮市）

甲子園球場にほど近いところにある簗瀬さんのお宅。これまでに外国の人のホームステイの経験はありましたが、フィリピンからは初めてです。奥さんが少し不安があったそうですが、すっかり家族の一人として溶けこんでいます。

この日はカナダからのお客さんも泊まっていました。

「今日、ネストールさんが行く教会を探して来ました。日本人とフィリピン人そしてそこの神父がスペイン人なんですよ。」とご主人。キッチンにはネストールさんのためにひらがなの表が貼ってあります。「彼はとても勉強熱心です。食事が済むとすぐ日本語の勉強をしています。明るい性格で何も困ったことはありませんが豆腐が苦手なので、今日は、味のついた卵豆腐で慣れてもらおうと思って」と、農家での研修を控え、食事面でもご配慮いただいているようでした。

山本記

ネストール・セルバンドさん

ドミーさんに続いて、フィリピン・ネグロス島からの第２の青年はネストールさん。７月６日の来日で遅れていた日本語研修も、石橋栄幸さんはじめボランティアの方々の協力による、事務所での個人教授で上達し、独特のイントネーションながら単語も次々に覚えていきます。いつでもどこでも陽気な彼は、すぐに故郷の歌を口ずさんでいます。何回か交流会に参加する機会があったのですが、７月31日の芦屋潮風学級、８月10日、11日の但馬農高農業経営クラブの生徒さんたちにネグロスの実状を話しました。８月12日からは丹南町・渡辺省悟さん宅での実習がスタートです。

レルさん（パプア・ニューギニア）―
中山松雄さん宅（神戸市兵庫区）

「同じ釜の芋汁」

お母さん「レル、冷蔵庫なー」
レルさん（中をのぞいて）「？」
お母さん「まっええか」

ＮＨＫおはようジャーナルでこのシーンをご覧になった方もおいででしょう。神戸の下町にある中山家はいつもお客さんで賑やか。お母さんと近くの市場を歩けば、帰りには手一杯のプレゼント。道に迷えば隣人がみつけてくれたり。

おとうさん、おかあさんと、タダスケ君とおイモさんと一緒に幸せそうなレルさん。

レルさんが滞在中、中山家の食卓には彼の好物の芋類、とうもろこしがよく並びました。彼の口に合うようにとお母さん特製の長芋汁は、中山家を訪れる人々も相伴にあずかり、まさに同じ釜ならぬ鍋の芋汁。言葉がまだ十分ではありませんが、賑やかに、楽しく、関西弁でつきあって下さる皆さん、レルさんにとってとっても居心地がいいようです。加藤記

レル・サパさん

ヘルペさんを先生とするセンターのトレーニングを受け、自分の村で定着農業を実践しているレルさんは、31才の独身。顔に似合わず甘えん坊。神戸でのホームスティでは、その日着ていくものをお母さんが出してくれるのをずっと待っていて日本語の学校に遅刻したことも。しかし優しさは人一倍。困っている人を見かけたら何をおいても助けにいくスーパーマンです。農文塾ではささみのさしみに挑戦しましたがギブアップ。市川町の牛尾武博さん、八千代町の青位真一郎さん、和田山町の大森昌也さんと、子供のたくさんいらっしゃる農家での実習にイキイキとりくんでいます。

ヘルペさん（パプア・ニューギニア）―
森ひとみさん宅（神戸市北区）

「いもうと」の名前は?

「初めは電車の中で呼ばれたりすると、変だったけど段々慣れました。」とは森さんのお嬢さん尚子さん。ヘルペさんは

お母さんの話しに耳をかたむけるヘルペさん。

尚子さんを「いもうと」と呼びます。何か変な感じですがその場に居合せると気になりません。ヘルペさんは辛いものが苦手。南の国では辛いものが好きだろうと出した辛口のカレーが食べられなかったそうですが、日本食は大丈夫。夕食時にはお母さんとビールで乾杯。ヘルペさん用の部屋には13か月になる娘さんの写真が飾られています。パプアではお父さんのヘルペさんも、森さんのお宅では尚子さんの兄弟のようです。

お母さん、妹さんからのメッセージは「まちがいを恐れず、もっとのびのびと。」です。最後にヘルペさん、「いもうとの名前は」「？」あれ、まだ知らないのかな。

加藤記

ヘルペ・ヨーワさん

昨年の研修生トニーさん同様ヤングペラディディマン（青年農業指導センター）のスタッフとして、有畜複合経営による定着農耕に取組んでいるヘルペさん。彼は、日本語の学習も、初めて触れる日本の生活習慣にも、積極的にチャレンジし、貪欲に何事も吸収しています。「わからないと何度も繰り返してくれる日本語の先生の姿から、相手のペースを大切にすることを学んだ。」と語るヘルペさん、７月30日から始まった農業実習では、日本の暑さも初体験。春日町の中野宗嗣さん、福崎町の広岡史郎さんのお宅での実習にせいをだしています。

「たくさんの出会いと経験」

第6回草の根生活塾レポート

兵庫県篠山町、丹南町で夏恒例の草の根生活塾を今年も行った。7月25～29日の4泊5日①PHDの研修生との交流を通じ、アジア・南太平洋地域に対する理解を深める②農家に滞在し、自分の食べるものが、どのようにつくられているのかを体験する③水汲みや薪割などの生活を体験するを目的に24人の小・中・高校生の参加者、10人のリーダーに加え、篠山町中央公民館、青年団、後川老人会、後川小学校の皆さん、農業研修を引き受けて下さった石田さん、東門さん、西村さん、溝口さん、安井さん、渡辺さんの各家庭の方々等100人を越す人々の協力で実施された。

5月中旬より、事務所で、篠山公民館で、農文塾で、計6回の準備会をもち、プログラムを検討した。この行事の目玉でもあるフィリピン、パプアニューギニア料理の作り方を言葉が十分でない研修生から聞きだすのも一苦労。

そして草の根生活塾、本番…朝起きるとまずカマドの火をおこし、調理や風呂の水も川からという生活の5日間。研修生に質問をし、現地のスライドを見たり、民族衣装をまとった歌や踊りから、フィリピンやパプアニューギニアがちょっぴり、身近になったのでは。スイカを使ったゲームで、今の世界の食糧分配の様子も考えた。

プログラムの中心である2泊3日の農家滞在。初めは豚などの強い臭いにまいったが、子豚に注射をうっているうちに不思議と全然気にならなくなった。子供達も同じと見え、最後には牛に話しかけたり、あの牛がかわいい！などといったり、動物にすっかり慣れていた様子だった。忘れられないのは農家から帰ってきた時のみんなの満足そうな顔。2日前より少し大人になって帰ってきたみたいだった。また最後の夜には、篠山青年団の方が、キャンプファイヤーをして下さり、後川小学校の子供達と一緒に楽しんだ。青年団の方々との壮絶なるゲーム合戦。今から来年のキャンプファイヤーも楽しみだ。

児島章一（専門学校生）

参加者レポートより

●農業体験をしてみて

野菜などをつくるのにはいろんな人々の苦労があってできてるから、大切にして食べようと思った。（中1・幸子）

あれだけの量の黒豆の種を植えつけた家族の人達はすごい。（中3・三紀子）

世界の食糧配分について安藤ねえさんの説明にききいる子供たち。

自分の家でつくった無農薬の作物の形はぶかっこうだけど、とてもおいしくて安全だという安心がありました。（高2・裕子）

ブタのにおいがきょーれつだった。（中3・優子）

ニワトリの卵はまだあたたかいのやきたないのもあったけど、おもしろかった。（小3・桃子）

●研修生の国のスライドや話から――。

日本もパプアニューギニアやフィリピンから学ぶことが多々あるのではなかろうか。（高1・淳）

知らなかったことは、割りばしが熱帯雨林の木を切っている事。（高1・宏恵）

消費者と労働者の間で多くの利益を得ている人がいるってこと。なんか腹立たしい気がする。（中3・三紀子）

●保護者の方のアンケートより――

数多くの子供達がこの様な生活を体験できるように心から望んでいます。（今西さん）

5日間の間に体験したことは、ほとんどが初めての事でとてもよろこんで帰ってきました。（毛利さん）

帰ってから何でも進んでしてくれます。おにぎりが上手にできなかった様子で、おにぎりの練習を一生懸命して、今ではびっくりする程の三角おにぎりが握れます。（石原さん）

日本で草木染めに挑戦！

去る7月22日、ソディーのメンバーはボーイスカウト72団の子どもたちと共に草木染めを体験しました。講師はタイの布を買っていただくことで知り合った藤井寺にお住まいの麻野美智子さん。（バイタリティあふれる3児の母であります。）まずは、染料になるヤマモモとヨモギを集めて準備。ヤマモモは木の皮を使うので、皮をはがす時に、ナタで手を切らないかとヒヤヒヤ。ヨモギの方は、"これヨモギかな？""えーやん。もう入れてしまい。""案外、村の人たちもいいかげんかもしれへんで。"とすったもんだしながら、なんとか準備ＯＫ。場所が山の上だったので、水道、ガスはなく、水をくんだり、火を起こすのにもひと苦労。"村の人らも、こんな手間かけとんやろなあー"と、思いはカレンの村へ。さあ、どんな色に染まるかな？たき出した煮汁に布を入れ、待つこと約20分。ヤマモモは渋い黄色に、ヨモギは緑色に！大成功でした。

7月中旬、草地総主事が、プリチャーさんたちの村を訪問しました。現在カレンの布のグループのメンバーは35人。ほとんどが主婦です。お金が村に届いたということで、その使い道を尋ねてみました。道具（くわ・なた・かまetc.）塩・薬・魚・子どもの本・鉛筆・食べもの…それぞれに必要なものを買ったとのことでした。自分たちが織った布が日本で売れ、お金になって手元に届いたことで、ますます活気づいているようです。村では、布は衣服にしたり、カバン、赤ちゃんをおぶるのに使ったり、まくらにしたりして利用しています。カレンの布を買って下さった方々は、何に使われましたか？ステキなものができたら、ソディーに知らせて下さいね。ご希望の方は、早目に連絡下さいね。それから村の様子のビデオもあります。ダビングできます。こちらもご連絡下さい。

上原真理（神戸市・幼稚園教諭）

PHD NEWS

■会費・ご寄附寄託状況

1990年	5月	186件	1,788,400円
	6月	248件	439,180円
	7月	262件	3,026,071円
		計696件	5,253,651円

以上の通り、多くの皆様より会費とご寄附を頂戴致しました。ご協力いただき深く感謝申し上げます。

●今年もインドジャティがやってくる

ＰＨＤ研修生を受入れていただいたご縁が、淡路、五色町とインドネシア・西スマトラ州を結んでいます。昨年に引続き淡路島に民族音楽・舞踊団「インドジャティ」を11月下旬招きます。淡路ウエストコーストの風を受けながら、スマトラの音楽に耳を傾けませんか。現在、詳細を調整中。詳しくは下記へ。

〒656-13　兵庫県津名郡五色町都志207
五色町役場
TEL(0799)33-0160
教育委員会　勢造博之さん

●オリジナルトレーナーができています

90年版のＴシャツは大好評。全国各地からご注文をいただきました。このＴシャツは年間通して扱っています。

さて今年のトレーナーはＴシャツに使ったデザインをプリントしました。89年版の控え目ワンポイントも継続製作。

'90年式	M・L　色／調整中	￥3,500
'89年式	M・L　色／紺・灰・ワイン・緑	￥3,000
Ｔシャツ	M・L（白地）	￥2,000
	110cm～150cm	￥1,500

●秋のバザー・目白押し

姫路／グループポカラ第6回手作り作品バザール

2期生ラダさんの姫路研修をきっかけにおばちゃん仲間で作った「グループポカラ」による恒例のバザール。ネパールからラダさんのグループで編んだセーターも届きます。

●とき：10月27日(土)　10:00～17:00
　　　　28日(日)　10:00～12:00
●ところ：姫路市東二階町
「ぎゃらりい81」
詳しくは (0792)39-0600 岩佐さんまで

神戸／青少年会館設置10周年・育連協結成20周年記念行事

●と　き：10月14日(日)　10:00～15:00
●ところ：神戸・メリケンパーク

●と　き：11月11日(日)　10:00～15:00
●ところ：神戸・雲井公園
神戸・三宮駅南東、青少年会館北

●スタディツアーは既に満席近し

第5回タイツアー

北部山岳地域のプリチャー、コマ、ウイラット、ペリアさん、東北のワラヤ、サンコム、バムルンさんの村を訪ねます。

日程　90/12/23(日)～91/1/2(水)10泊11日
費用　19万円程度　募集13人

第7回ネパールツアー

久々のネパールツアー、各地でがんばる7人の研修生を訪ねます。

日程　91/1/4(金)～1/13(日)　9泊10日
費用　23万円程度　募集10人

いずれも仮申込で満席に近い状況です。

研修生と出会うチャンス!!
'90東日本の研修旅行

研修生の経験に加え、各地でご支援いただく皆様にお目にかかるため実施する東日本研修旅行を只今、調整中。各地の会員の皆様同士が顔を合わせるにもよい機会です。訪問、交流会を希望される方、御連絡下さい。コースが決定しましたら、対象地域の皆様にご案内いたします。

時期：90年11月中旬～12月中旬
基本コース：（車で参ります）神戸～滋賀～東海地方～静岡～神奈川～東京～千葉・埼玉～山梨～群馬～長野～岐阜～北陸
訪問者：第8期研修生3名、職員
内　容：研修生が話し、現地のスライドを使っての交流会・研修生に役立つ見学、宿泊等お願いします。

●第4回NGO大学「第三世界の人々と私の生き方」

第1回	9／22–23	講師	長峰晴夫
第2回	10／27–28	講師	池住義憲
第3回	11／23–24	講師	アジア・アフリカの NGO関係者
第4回	12／8–9	講師	宇井純
第5回	1／12–13	講師	村田稔
第6回	2／2–3	講師	NGO関係者

各回1日目18:30～2日目16:00
全期間受講料2万円。定員40名
主催　関西国際協力協議会

申込書、パンフレットを用意しています。ご請求下さい。

○月×日のPHD協会

総主事・草地　例年にも増して今年は海外出張が多く、今回はスタディーツアーの引率中。よって本日も神戸の町は穏やかにすぎていく…。

主事・藤野　開かれた、敷居の低いＰＨＤを念頭に日々業務に勤しむ。最近、ボランティアメンバーのひとりが、ジャズクラブでの稼ぎを始め、そこのリッチな客から寄付を頂けないかと思案中。

主事補・中尾　職員2年目で、充実の27才なるも、プライベートタイムが少なく、婚期を逸するのではと危ぶむ声も当人からのみきこえてくる。研修生の日本語のデキに心配気な研修担当。

嘱託・逸見　冷静沈着、淡々とした仕事ぶりにクールヘンミの異名をとる。日々の入金管理、レターの発送、草生塾の準備と多忙な毎日のせいか車の後席に乗るとゆるんでサイフを置いていく習癖有。

嘱託・加藤　この4月、東京からやって来たため、彼女のアパートを神戸の宿とする遠来の友人がひきもきらず、宿屋のオカミか。遠方からＰＨＤのお訪ねの方、女性に限り、お泊めしますとのこと。

●研修生受入農家森野英樹さん、野菜の配送の帰り、トマトを土産に来訪。旨い。

●草生塾でお世話になった篠山町中央公民館の畑さん、ボーイスカウトの活動にＰＨＤをとりいれている畑中さんのハタハタコンビで明石市のボランティア研究大会に事例報告者として出ていただく。

編集後記

ＰＨＤに初めて来たのは、大学のクラブを引退して就職活動をしようかという頃。ずっと運動ばかりやっていたので、残りの大学生活に色々な事をやってみたいと思っていたので、草生塾のリーダーをふたつ返事で引受けました。農家滞在をしたいという希望がかなえられ感激。草生塾に集った子供たち、農家の方々、そして明るいネストールさん、つぶらな瞳のレルさん、真面目なヘルペさんの３人の研修生、ボランティアのみんなに出会えて良かった。

お金やモノをドンとあげるような派手さはないけれど、出会いを通じて育てあげられていくＰＨＤの活動。地道だけれど的をえていると思う。草の根のいみとすごさを感じてきたぞ。草生塾が終って事務所に寄ったらレターの編集に誘われてしまいました。就職してからも入りびたりそう。よろしくね。（たろーちゃん）

編集メンバー
赤松恵美子　伊藤洋子　今出敏彦
柿原登志夫　梶原靖子　川那辺裕子
児島章一　芝美代子　田中裕美　中山瑞恵
浜地律知　山崎桂　山田晃三　山本さおり

新規会員・寄付者ご芳名は、
個人情報保護のため
掲載しておりません。

草の根 交差点

群馬県内にも会員の方がいるそうですが、その方々と交流して、少しずつでも輪を広めていければと思います。

前橋市元総社町131-2　小宮山恵美子さん

――お近くの方ぜひご連絡を。東日本研修旅行でぜひ訪ねさせて下さい。

また来てごしなはれね。秋には研修生を迎えるのを楽しみにしています。

鳥取　羽合町　堀内さん

――こないだの鳥取交流会ではお世話になりました。次は研修生をヨロシク。

給食を残している子に　まわりの子が「残さんと食べよ」と声をかけるなど、それぞれの心に感ずるものがあったと思います。

ＰＴＡの行事でＰＨＤ交流会を主催された

加古川市　大西さん

会員募集の紙、あと22枚とレター10部送って下さい。どれだけの人が入ってくれるかわかりませんが……

岐阜　中津川市　大石さん

――勇んでお送りしました。

早速お送りいただきありがとう。素敵なＴシャツですね。

兵庫　波賀町　池谷さん

――今年のは仲々評判がいいようです。

ご寄附に対する免税の特典

当法人は特定公益増進法人としての認定を得ていますので、ご寄附に対する下記のような特典があります。

寄附者が個人の場合

寄附金合計額（所得金額の25％未満）マイナス１万円
寄附金控除額（所得総額から控除できる額となります）
（例）1000万円の所得の人が250万円を寄附されると、249万円の寄附金控除。

寄附者が法人の場合

寄附金合計額が一般寄附損金算入限度額の2倍未満までが損金扱いとなります。
（例）資本金10億円で、その年の所得が3億円で1年決算の会社の寄附金の損金算入額は1,000万円未満まで（一般では500万円）

ロータスクーポン・グリーンスタンプ・ブルーチップ

1990年５月22日～８月６日

〈千葉県〉岩野　鈴
〈東京都〉蛭田三男　森　康彦
〈兵庫県〉三木美保
〈山口県〉松本　徹

2点　見本